

第 13 回 宇 宙 開 発 委 員 会 (定例会議)

議 事 次 第

1. 日 時 昭和 5 5 年 7 月 9 日 (水)

午前 1 0 時 ~ 1 1 時

2. 場 所 宇 宙 開 発 委 員 会 会 議 室

3. 議 題 M-3 S ロケット 1 号機の打上げ結果の評価について (報告)

説明者

宇宙開発委員会第四部会長 佐 貫 亦 男

4. 資 料

委 1 3 - 1 第 1 2 回 宇 宙 開 発 委 員 会 (定例会議) 議事
要旨 (案)

委 1 3 - 2 M-3 S ロケット 1 号機の打上げ結果の評
価について (報告)

委13-1

第12回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨 （案）

1. 日 時 昭和55年7月2日（水） 午後2時～4時

2. 場 所 宇宙開発委員会 会議室

3. 議 題 H-Iロケットの開発について
（宇宙開発委員会 第二部会第一次報告）

4. 資 料

委12-1 第11回宇宙開発委員会（定例会議）議事
要旨（案）

委12-2 H-Iロケットの開発について
第一次報告書

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	吉 識 雅 夫
“ 委員	斎 藤 成 文
“ “	八 藤 東 禧

説明者

宇宙開発委員会第二部会長	鷲 津 久一郎
“ 第二部会H-Iロケット分科会長	武 田 峻

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長	勝 谷 保
-------------	-------

科学技術庁長官官房審議官

文部省学術国際局審議官

運輸省大臣官房総務審議官

“ 気象庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

宇宙開発事業団システム計画部
事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

“ “ 宇宙国際課長

“ “ 宇宙開発課長

神 津 信 男

大 崎 仁

（代理：横 山）

石 月 昭 二

（代理：黒 部）

森 雅 史

（代理：山 中）

三 浦 一 郎

（代理：飯 田）

大 野 信 幸

佐々木 寿 康

佐 藤 允 克

鈴 木 晃

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨

第11回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨案が確認
された。

(2) H-Iロケットの開発について

（宇宙開発委員会 第二部会第一次報告）

鷲津第二部会長及び第二部会 武田H-Iロケット分科
会長より、資料委12-2に基づき説明が行われたのち、
以下の質疑応答が行われた。

吉識： 800kg級H-Iロケットのコンフィギュレーションの検討はいつ行うのか。

鷗津： 800kg級H-Iロケットのコンフィギュレーションについては、引き続いてわが国の将来の宇宙輸送系の検討を行い、その結果を踏まえて調査審議を行う予定である。

吉識： その検討を進めるに当たっては、技術的条件以外の前提条件が必要となるか。

武田： スペースシャトル、アリアン等の運航状況、経済的フィージビリティ、ユーザの要望等を勘案するとともに、我が国の将来の宇宙輸送系との関連を考慮する必要がある。

八藤： この報告書は今後もお技術的に検討すべき事項が残されているというものなのか。

武田： 500kg級H-Iロケットに関しては、射点系を除き、コンフィギュレーションは一つに固まっている。800kg級H-Iロケットに関しては技術的に検討すべき問題は残されており、今後、将来の宇宙輸送系の検討を行うたうえて、コンフィギュレーションを選定すべきものと考えている。

八藤： 9頁に800kg級H-Iロケットのコンフィギュレーション案のうちLiquidグループの比較検討結果が記述されているが、ここで示された各案の長所、短所は同じ重みを有しているものなのか。

武田： ここに示された長所、短所は様々な見地から書かれたもので、単純に比較するのは難しい。今後、800kg級H-Iロケットのコンフィギュレーションの決定に当たっては、これらの長所、短所の判断を慎重に行うべきである。